

高校教育改革の今とこれから

学習指導要領が現行の「探究」へ改訂され、高等学校に本格導入された2022年度から3年が経過した。児童・生徒の問いを起点にした探究学習は個々の成長をもたらす一方で、その問いの範囲は学校内に留まるものではなく、これまで以上に地域と連携して子ども達の問いに伴走する必要がある。生徒の多様化や社会の変化への対応、「社会に開かれた教育課程」を担う教職員の多忙さには拍車がかかり、教育改革と働き方改革の議論が同時並行的に進む。近年は教員採用倍率の低下等もニュースになるが、教育の担い手不足への危機感も高まっている。過渡期とはまさにこのことだ。本特集では、高校改革調査の結果からその現状をデータで把握するとともに、全国の高校生の約7割が通う普通科高校において、地域や生徒のニーズに応じた特色ある教育改革に奮闘する3校を紹介する。初等中等教育の改革状況を振り返りながら、さらにその先にある次期学習指導要領改訂の議論についてもまとめた。高等教育の前段階の教育課程で何が起きているのか。奮闘する高校の実情と今後について思いを巡らす機会となれば幸いである。



Contents

Research

変化する高校教育に対する教員の現状
～高校教育改革に関する調査2024 結果報告～

Case Studies

教育改革が進む普通科高校の現状

- 1 岩手県立大槌高等学校
- 2 福岡県立八幡高等学校
- 3 島根県私立明誠高等学校

Interview

初等中等教育の教育改革を振り返る

文部科学省初等中等教育局 主任視学官
田村 学

Report

次期学習指導要領改訂に向けて

カレッジマネジメント編集部・リクルート進学総研 研究員
鹿島 梓